

### 熊本中央病院

熊本中央病院院長 濱田 泰之

当病院は、昭和二十六年四月に「非現業共済組合連合会 熊本共済診療所」として熊本市新屋敷一丁目開設、昭和二十七年には診療所を廃止し、四十一床の病院として「非現業共済組合連合会 熊本中央病院」、昭和三十三年には現病院名である「国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院」へと名称を改めました。その後、施設及び組織の拡充を図り、増築及び改築を重ねてきましたが、経年による建物の老朽化、狭隘化したことから、平成九年一月に熊本市田井島一丁目に新築移転し、現在に至っています。

当院病床数は三六一床、診療科目は産婦人科、耳鼻咽喉科を除く十五科あり、医師八九名を含めた総職員数は五七七名であり、七対一の看護体制をとっております。また、当院はCT二台、MRI二台、冠動脈造影装置二台、リニアックなどの高度医療機器を揃えるとともに、集中治療部門としてICU・CCU・一〇床、HCU八床、RCU六床を有しており、地域の医療機関からの要望に充分応えることができる診療体制を作り上げています。

病院の理念は「質の高い誠実な医療による地域への貢献」であり、診療方針として、①かかりつけ医を支援し、入院を中心とした急性期医療を提供することで病院本来の役割を果たします。②患者さんを中心とした効果的で効率的な医療サービスを提供します。③医学および医療技術の研鑽に努め、信頼される医療サービスを提供します。を掲げています。すなわち、地域の診療所および病院と相互に協力・連携し、「入院を中心とした急性期医療」を展開することであります。当院は「かかりつけ医」ではなく、専門的な検査、高度な手術・治療を提供する事で地域医療に貢献することを目指



熊本中央病院

して、現在、地域の医療機関から毎月八〇〇件を超える紹介を頂いています。が、これは当院の専門に特化した急性期医療に対して評価を頂いている

ことの一つの証明であること自負しております。言い換えれば、高度な医療を効率的に提供する事で患者さんの満足度が高まり、それによって紹介元医療機関の満足度向上につながる事が我々の目指す医療の姿であります。岩永前院長の「志なき医療者は去れ！」という言葉を重く受け止めて、志を高くして品格のある質の高い医療を効果的に効率よく患者さんに提供していくことが当院の使命だと思っております。

また、医師の卒後研修も地域医療に対する重要な貢献であるとの認識から、「卒後新臨床研修医制度」に従って、管理型研修病院として参加しており、毎年六名の研修医を採用しております。また、熊本大学医学部付属病院の協力型病院として研修医を受け入れていきます。

当院は急性期医療を担う立場ですが、気軽に利用して頂ける病院として、紹介頂いた患者さんについては紹介元医療機関、本人並びに家族の希望を踏まえつつ、安全で至適な医療サービスを提供できるように地道に努力していきたくと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。

## 熊本の病院紹介・県下医療系大学紹介

### 熊本大学医学部保健学科

保健学科長 石丸 靖二

熊本大学医学部保健学科は看護学専攻、放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻の三専攻から成り、看護師、保健師、助産師、高等学校看護科・専攻科看護教員、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療人を育成し、医療関連施設、保健所などの公的機関、産院および研究施設などで活躍し、質の高い信頼のおける医療とその発展に寄与する医療人を世に送り出すことを大きなひとつの目標にしています。

本学科は、その前身であり昭和五十一年に設立された三年制の医療技術短期大学部から医学界へ多くの人材を輩出してきましたが、さらに日々進歩する医療技術を導入した新しい保健学を實踐し、より高度な医療人を育成するために、平成十五年十月、医療技術短期大学部と教育学部特別教員(看護)教員養成課程を統合して教員数六二名、学生総数六四〇名を擁する医学部保健学科に改組されました。

教育目標として、人間に対する尊敬の念を持ち人間愛に満ちた協調性豊かな人材、多様な価値観を受け入れる寛容さを持ち、



熊本大学医学部保健学科

患者や家族の気持ちや考えを理解でき、倫理観とマナーを育てられる人、専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び、自らの課題を設定して問題解決し、チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、専門分野における役割・機能の責務を果たし、指導性を育てられる人、専門分野において地域貢献することにも、国際的な広い視野で物事を考え、国際的視野で活躍する意欲のある人の養成を挙げています。

また、保健、医療、福祉分野における高度専門職業人や指導者、教育研究者の育成にむけて平成二十年四月から大学院保健学教育部が新たに設置され、多くの大学院学生をはじめ迎えられることができた。さらに、保健学分野の学問体系の確立や高度な研究能力と指導力を有する人材を輩出するために、大学院保健学博士後期課程の二十二年度の設置に向けて申請中であり、急速に進歩する科学技術に対応した高度な医療科学を学び研究するためのベストな環境をこれからも整備し提供していく考えであります。

平成二十年度の国家試験の合格率は、看護師(一〇〇%)、臨床検査技師(九七%)、放射線技師(七九%)といずれも全国平均を上回っています。卒業生はほぼ一〇〇%が就職あるいは進学しており、今後とも優秀な学生を送り出していくことに全力をつくすつもりです。研究活動の指標の一つとしての平成二十、二十一年度の科学研究費の採択件数はそれぞれ二三と二〇件、総額は三〇〇万と二五〇万円ですが、二十二年度には大学院博士後期課程も設置される予定であり、かつ研究施設も改修等で逐次整備されつつあることから、今後さらに大きな研究成果を挙げることができると願っております。これから新しい保健学の学問体系を確立し発展させることを基本理念として保健学科をさらに発展させていきたいと考えています。